

認知症予防と薬剤師の役割



日本認知症予防学会理事
(一社)日本認知症予防学会
理事 山田 武志

わが国では高齢化の進展に伴い、認知症またはその予備軍とされる高齢者が増加し続けており、認知症の発症予防や進行抑制は、今や社会全体で取り組むべき重要な課題となっています。こうした中、日本認知症予防学会は2011年の設立以来、認知症予防に関する研究・教育・実践の推進を通じ、多職種の協働による予防活動の発展に大きな役割を果たしてきました。

こうした中、認知症の予防や早期対応を考える上で、薬剤師の果たす役割もますます重要になっています。高齢者では複数の慢性疾患を抱えることが多く、ポリファーマシー（多剤併用）や薬剤による認知機能への影響が大きな課題となっています。薬剤師は日常的に患者の服薬状況を把握し、薬物療法の適正化や副作用の早期発見、医師への処方提案などを通じて、認知機能の維持や生活の質の向上に貢献することができます。

また、地域の薬局は住民にとって身近な健康相談の場でもあります。日常的な会話や服薬支援を通じて認知機能の変化に気づくことができる立場にある薬剤師が、医療・介護・福祉の専門職と連携しながら早期の受診や支援につなげていくことは、地域における認知症予防の取り組みを支える重要な要素と言えるでしょう。

本学会では、認知症予防専門薬剤師をはじめとする専門人材の育成や、多職種連携による予防活動の推進に取り組んでいます。認知症予防は特定の職種のみで実現できるものではなく、医療・介護・地域社会が一体となって取り組むことで初めて大きな成果につながります。薬剤師としても、薬物療法の専門家としての知識と地域に根ざした活動を通じ、認知症予防に積極的に関わっていくことが求められています。

今後も本学会の活動を通じて、多職種が連携しながら認知症予防の実践とエビデンスの蓄積を進め、地域社会における健康長寿の実現に寄与していきたいと考えております。会員の皆様のさらなるご協力とご指導を賜りますようお願い申し上げます。